

令和5年2月提出

大船渡市議会議長 三浦 隆 様

会派名 光政会

会派視察報告書

視察概要

視察日、視察先、視察・研修項目

1 視察日

令和4年10月24日（月）～25日（火）

2 視察先及び視察項目

10月24日

視 察 先 東京都千代田区

視察項目 ・財務大臣 鈴木俊一衆議院議員 要望

・ILCの動向について 文部科学省

・白石トンネル、107号高規格化の見通しについて 国土交通省

・水産業の見通しと積み立てプラスについて 水産庁

10月25日

視 察 先 東京都豊洲市場

視察項目 ・豊洲市場の現状と水産業の見通しについて 豊洲市場

3 参加議員

光政会（5名）

紀室若男 伊藤力也 森 亨 渡辺 徹 佐藤優子

4 行程

大船渡市議会 光政会 国会・豊洲視察行程

10月24日(月)

大船渡市役所 **5:00** 出発

水沢江刺駅発 **6:38** 東北新幹線

東京駅着 **8:56**

- (1) 移動 **9:30** 第一議員会館 1001号室 鈴木俊一大臣
〒100-8981 東京都千代田区永田町 2-2-1 衆議院第一議員会館 1001号室
Tel 03-3508-7267 (直通電話) / Fax 03-3508-3543
●丸ノ内線 1番出口 徒歩 3分
10:00 藤原 崇(衆議院第二議員会館 1015号室 03-3508-7207)財務政務官
10:20 廣瀬めぐみ代議士(参議院議員会館 322号室 TEL03-6550-0322) 訪問
- (2) 移動 国土交通省 東京都千代田区霞が関 2-1-3 中央合同庁舎 3号館
東京メトロ丸ノ内線・日比谷線・千代田線
霞ヶ関駅 A2、A3a、A3b出口
国土交通省 **10:45** 1Fロビー 鈴木俊太郎秘書待ち合わせ
国土交通省 道路局長対応 **11:00~12:00**
- (3) 移動 国会 **国会議員食堂 12:00~13:00**
国会見学 **13:00~13:40**
- (4) 移動 **水産庁 14:00~14:40** 住所：〒100-8907 東京都千代田区霞が関 1-2-1
電話番号：03-3502-8111 (代表)
- (5) 移動 **文科省 15:00~16:00** 〒100-8959 東京都千代田区霞が関三丁目 2番 2号
電話番号：03-5253-4111(代表)
- (6) 移動 **鈴木財務大臣室**
財務省 鈴木財務大臣室 **17:00~18:00** 〒100-8940 東京都千代田区霞が関 3-1-1
電話番号：03-3581-4111 (代表)

10月25日(火)

豊洲市場 ゆりかもめ「市場前」集合 **9:00~11:30**
東京都江東区豊洲 6-6-1 電話：03-3520-8205

5 懇談項目

- (1) 鈴木俊一財務大臣訪問・地域要望
- ① 国際リニアコライダー(ILC)の誘致・実現について
 - ② 国道107号の新白石トンネルの早期掘削と大船渡から釜石道大船渡遠野インターまでの高規格化の実現について
- (2) 文部科学省
- ① ILCの動向について
 - ・国際プロジェクトであるILC計画を主導する立場として、各国との資金の分担や研究参加に関する国際調整などの早期合意の動向について伺います。

- ・ I L C実現に向けて、大船渡港をハブ港とした流通の確立とクライオモジュール組み立て実験設備の誘致の実現について伺います。
 - ・ I L C実現に向けて、山口・永浜から国道 45 号、陸前高田を經由し大東地域までの道路改良工事の実現の可能性について伺います。
 - ・ 陸前高田地域の観光関連人口拡大のための受入れと住田地域の居住関連施設インセンティブの可能性について伺います。
- (3) 国土交通省・白石トンネル・107号高規格化
- ・ 現在白石トンネルに係る計画は、計画延長 2.7km、計画幅員 6.5(9.0~9.5)m、トンネル 2.3 km、橋梁 1 橋であり、事業期間は、令和 4 年度 ~ 令和 13 年度、総事業費:9,400 百万円で計画されているが今後のスケジュールについて伺います。
 - ・ 「構想路線」に、大船渡市ー遠野市間の「(仮称)大船渡内陸道路」の路線を新たに位置付け検討を開始していますが、今後の動向について伺います。
- (4) 農林水産省・水産 不漁対策・共済制度(積み立てプラス)
- ・ サケ・サンマ等の不漁対策、貝毒対策について伺います。
 - ・ 陸上養殖の今後の動向と支援について伺います。
 - ・ 積み立てプラスの今後の継続について伺います。

6 国会視察

- ① 本会議場
- ② 予算委員会室
- ③ 総務会室

7 省庁視察報告

(1) 鈴木俊一財務大臣訪問・地域要望

- ① 国際リニアコライダー(I L C)の誘致・実現について
- ② 国道 107 号の新白石トンネルの早期掘削と大船渡から釜石道大船渡遠野インターまでの高規格化の実現について

● 対応 財務大臣鈴木俊一衆議院議員、鈴木俊太郎秘書

この度の財務大臣の訪問において、当地区の地域課題として、「国際リニアコライダー(I L C)の誘致・実現について」、「国道 107 号の新白石トンネルの早期掘削と大船渡から釜石道大船渡遠野インターまでの高規格化の実現について」を重点項目として、要望した。はじめに、I L Cの誘致実現について、本市においては、施設建設に係る資機材の荷揚げや運搬の整備に係る大船渡港の利活用やハブ港としての位置づけ、クライオモジュール組み立て・実験場の誘致、研究者とその家族の来訪・居住による大船渡市内の水産流通や経済関連、交流人口拡大について中心市街地の賑わいの再生に大きな期待が寄せられ、その重要度がますます大きくなっている点などを中心に要望した。

懇談の中で、昨今のウクライナ情勢や世界的な物価の高騰の中、米国や欧州の経済情勢が不安定な状況が続く中、見通しが見えない状況について説明を受けた。しかしながら、粘り強く動向を注視しながら、誘致・実現を見据える回答を頂いた。来年度の予算についても、増額を目指しながら積極的に取り組んで行く考えを頂いた。

次に、「国道 107 号の新白石トンネルの早期掘削と大船渡から釜石道大船渡遠野インターまでの高規格化の実現について」、県は、「県は災害に強い道路ネットワークの構築など今後 20～30 年間の整備方針をまとめた「県新広域道路交通計画」を策定した。将来的な高規格道路化を目指す「構想路線」に、大船渡市－遠野市間の「(仮称)大船渡内陸道路」の路線を新たに位置づけ、内陸部を結ぶ高規格化の検討をする。」としている。107 号の新白石トンネル早期の掘削について、現在、今後 6、7 年間の事業として決定している。早期の完成を経済振興と災害時の緊急道路の視点から要望した。また、内陸部を結ぶ高規格化についても、大船渡港や観光交流、インバウンド、経済交流の関係から、早期の実現について強力に要望した。



要 望 書

令和4年10月24日

鈴木俊一財務大臣

大船渡市議会 光政会

1. 国際リニアコライダー（ILC）の誘致・実現について

国際リニアコライダー（ILC）は、我が国が示す科学技術創造立国と科学外交の促進、高度な技術力によるものづくりの強化、さらには、人材育成を通して我が国の成長戦略を促す重要な位置づけとなっています。

ILCの建設が、「北上サイト」を中心に計画され実現することにより、本市においては、施設建設に係る資機材の荷揚げや運搬に整備に係る大船渡港の利活用やハブ港としての位置づけ、クライオモジュール組み立て・実験場の誘致、研究者とその家族の来訪・居住による大船渡市内の水産流通や経済関連、交流人口拡大について中心市街地の賑わいの再生に大きな期待が寄せられます。

ILC関連企業の支店や営業所等関連企業の交流は、地元企業との連携による技術力の向上や産業振興、研究施設や関連産業での雇用創出、さらには教育水準の向上など、復興後の地方創生や持続可能なまちづくりに繋がる重要な視点となります。

また、この地域が研究者や関係者、企業の迅速な活動拠点としての役割を担っていくには、時間の短縮が課題となります。そのことに対応するために気仙地域内の道路環境の整備が喫緊の課題となっております。

つきましては、ILCの早期実現に向け、関係省庁の議論を加速させつつ、次の事項について特段のご配慮をお願いいたします。

- (1) 国際プロジェクトであるILC計画を主導する立場として、各国との資金の分担や研究参加に関する国際調整などの早期合意を目指し、確実な実現を図ること。
- (2) ILC実現に向けて、大船渡港をハブ港とした流通の確立とクライオモジュール組み立て実験設備の誘致を実験すること。
- (3) ILC実現に向けて、山口・永浜から国道45号、陸前高田を經由し大東地域までの道路改良工事の実現を図ること。
- (4) 陸前高田地域の観光関連人口拡大のための受入れと住田地域の居住関連施設インセンティブの検討をすること。

2. 国道 107 号の新白石トンネルの早期掘削と大船渡から釜石道大船渡遠野インターまでの高規格化の実現について

重要港湾の大船渡港と盛岡市や産業が集積する奥州、北上、花巻市を結ぶ物流道路であり、平常時とともに、災害時においても安定的な輸送が求められる路線である。

岩手県地域防災計画においては緊急輸送道路(第1次路線)に指定されており、また、災害時に後方支援拠点とする遠野市や北上市へアクセスする道路であり、東日本大震災津波の際には、内陸から沿岸部への救命・救援ルートとして機能している。

しかしながら、そのルートは急勾配区間が連続し速度低下や、スリップ事故等の発生が多く、また、白石トンネルは幅員が狭く大型車同士のすれ違いが困難であり、安全で円滑な交通の支障となっている。

このため、約 2.3km の長大トンネルの整備により急勾配、線形不良等の課題を解消し、災害時における緊急輸送道路としての機能強化、物流機能の向上、救急搬送の支援を図る必要がある。

また、「いわて県民計画(2019~2028)」において、『防災対策や産業振興など幸福の追求を支える社会基盤が整っている岩手』を政策推進の基本的な考え方としている。当該区間の整備促進については、大船渡市、陸前高田市、住田町、関係団体から強い要望がある。

県は災害に強い道路ネットワークの構築など今後 20~30 年間の整備方針をまとめた「県新広域道路交通計画」を策定した。将来的な高規格道路化を目指す「構想路線」に、大船渡市-遠野市間の「(仮称)大船渡内陸道路」の路線を新たに位置付け、内陸部を結ぶ高規格化の検討をする。

- (1) 現在白石トンネルに係る計画は、計画延長 2.7km、計画幅員 6.5(9.0~9.5)m、トンネル 2.3 km、橋梁1橋であり、事業期間は、令和4年度 ~ 令和 13 年度、総事業費:9,400 百万円で計画されているが早期の完成を要望する。
- (2) 「構想路線」に、大船渡市-遠野市間の「(仮称)大船渡内陸道路」の路線を新たに位置付け早期の高規格化実現を強く要望する。

要 望 書

令和4年10月24日

鈴木俊一財務大臣

大船渡市議会 光政会

1. 国際リアコライダー(ILC)の誘致・実現について
2. 国道 107 号の新白石トンネルの早期掘削と大船渡から釜石道大船渡遠野インターまでの高規格化の実現について

(2) 文部科学省・I L Cの動向について

- ・国際プロジェクトであるI L C計画を主導する立場として、各国との資金の分担や研究参加に関する国際調整などの早期合意の動向について伺います。
- ・I L C実現に向けて、大船渡港をハブ港とした流通の確立とクライオモジュール組み立て実験設備の誘致の実現について伺います。
- ・I L C実現に向けて、山口・永浜から国道45号、陸前高田を經由し大東地域までの道路改良工事の実現の可能性について伺います。
- ・陸前高田地域の観光関連人口拡大のための受入れと住田地域の居住関連施設インセンティブの可能性について伺います。

● 対応 西山 研究振興局基礎・基盤研究局課長

I L C実現に向けては、主導する立場として各主研究機関と連携して、様々な課題を調査しながら、取り組んでいる状況の説明を頂いた。特に、現在のウクライナ情勢により、欧州各国経済的な不安定要素が重なり、肝心の話し合いが止まっている状況について懸念している説明を受けた。しかしながら、日本で行う直線の加速器の有意性を発揮し、粘り強く計画を進める考え方を頂いた。また、欧米各国の物価高騰、コロナ禍における政情不安の要素が加味していることから、来年度においても予算確保に向けた調整を急いでいる現状も理解できた。光政会からの要望書を直接、文部科学省に届けることができ、現場の事情を説明できた意義は大きい。





要 望 書

令和4年10月24日

文部科学省

大船渡市議会 光政会

1. 国際リニアコライダー（ILC）の誘致・実現について

国際リニアコライダー（ILC）は、我が国が示す科学技術創造立国と科学外交の促進、高度な技術力によるものづくりの強化、さらには、人材育成を通して我が国の成長戦略を促す重要な位置づけとなっています。

ILCの建設が、「北上サイト」を中心に計画され実現することにより、本市においては、施設建設に係る資機材の荷揚げや運搬に整備に係る大船渡港の利活用やハブ港としての位置づけ、クライオモジュール組み立て・実験場の誘致、研究者とその家族の来訪・居住による大船渡市内の水産流通や経済関連、交流人口拡大について中心市街地の賑わいの再生に大きな期待が寄せられます。

ILC関連企業の支店や営業所等関連企業の交流は、地元企業との連携による技術力の向上や産業振興、研究施設や関連産業での雇用創出、さらには教育水準の向上など、復興後の地方創生や持続可能なまちづくりに繋がる重要な視点となります。

また、この地域が研究者や関係者、企業の迅速な活動拠点としての役割を担っていくには、時間の短縮が課題となります。そのことに対応するために気仙地域内の道路環境の整備が喫緊の課題となっております。

つきましては、ILCの早期実現に向け、関係省庁の議論を加速させつつ、次の事項について特段のご配慮をお願いいたします。

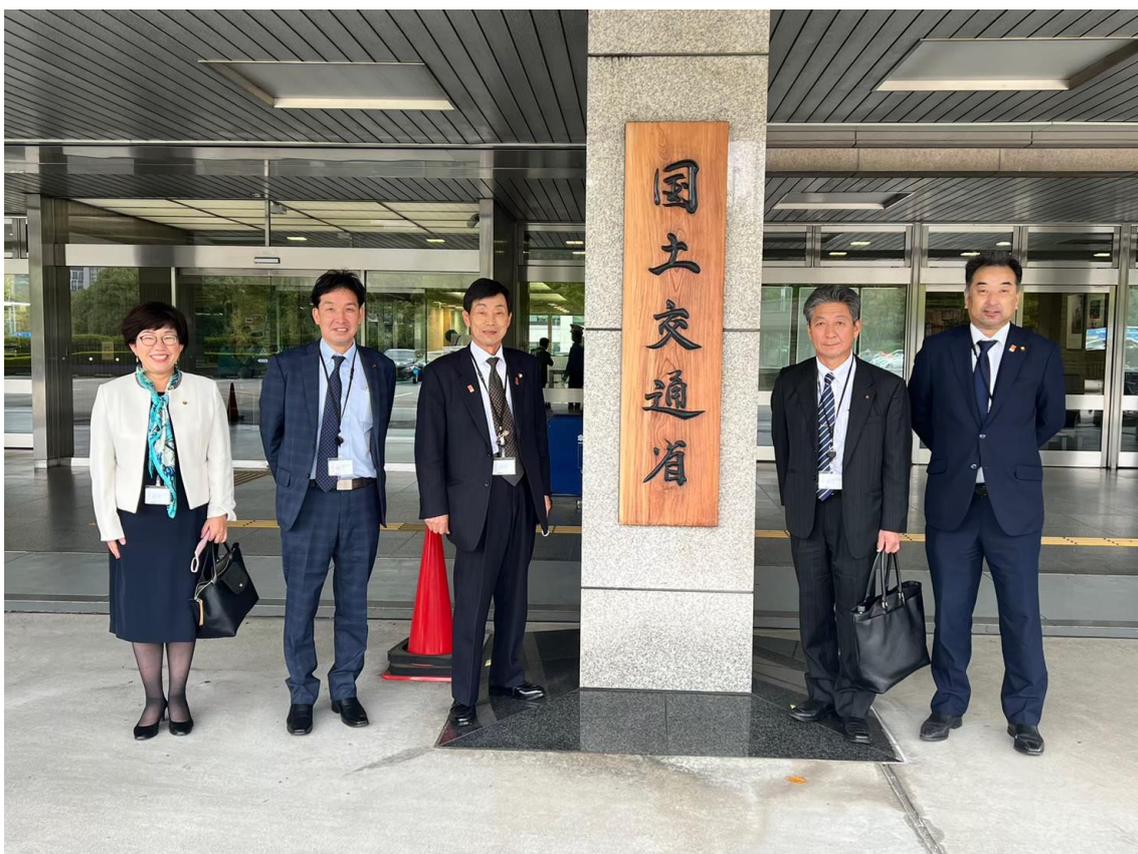
- (5) 国際プロジェクトであるILC計画を主導する立場として、各国との資金の分担や研究参加に関する国際調整などの早期合意を目指し、確実な実現を図ること。
- (6) ILC実現に向けて、大船渡港をハブ港とした流通の確立とクライオモジュール組み立て実験設備の誘致を実験すること。
- (7) ILC実現に向けて、山口・永浜から国道45号、陸前高田を經由し大東地域までの道路改良工事の実現を図ること。
- (8) 陸前高田地域の観光関連人口拡大のための受入れと住田地域の居住関連施設インセンティブの検討をすること。

(3) 白石トンネル・107号高規格化

- ・現在白石トンネルに係る計画は、計画延長 2.7km、計画幅員 6.5(9.0~9.5)m、トンネル 2.3 km、橋梁 1 橋であり、事業期間は、令和 4 年度 ~ 令和 13 年度、総事業費:9,400 百万円で計画されているが今後のスケジュールについて伺います。
- ・「構想路線」に、大船渡市-遠野市間の「(仮称)大船渡内陸道路」の路線を新たに位置付け検討を開始していますが、今後の動向について伺います。

●対応 国土交通省道路局長 丹波克彦

この度、国土交通省道路局長にアポイントメントを取って頂いたことが、非常に大きな成果と考える。道路局長に、直接地域の道路事情をお話しすることができ、地域の港湾の活用コンテナ輸送路として、白石トンネルが特に冬場において困難を極めている事情を理解して頂いた。また、大船渡-遠野間の高規格化について、東日本大震災の発災時に緊急路や緊急自動車の走行に支障をした現状を理解して頂くと共に、早期の高規格化について理解を頂いた。





要 望 書

令和4年10月24日

国土交通省

大船渡市議会 光政会

1. 国道107号の新白石トンネルの早期掘削と大船渡から釜石道大船渡遠野インターまでの高規格化の実現について

重要港湾の大船渡港と盛岡市や産業が集積する奥州、北上、花巻市を結ぶ物流道路であり、平常時とともに、災害時においても安定的な輸送が求められる路線である。

岩手県地域防災計画においては緊急輸送道路(第1次路線)に指定されており、また、災害時に後方支援拠点とする遠野市や北上市へアクセスする道路であり、東日本大震災津波の際には、内陸から沿岸部への救命・救援ルートとして機能している。

しかしながら、そのルートは急勾配区間が連続し速度低下や、スリップ事故等の発生が多く、また、白石トンネルは幅員が狭く大型車同士のすれ違いが困難であり、安全で円滑な交通の支障となっている。

このため、約2.3kmの長大トンネルの整備により急勾配、線形不良等の課題を解消し、災害時における緊急輸送道路としての機能強化、物流機能の向上、救急搬送の支援を図る必要がある。

また、「いわて県民計画(2019~2028)」において、『防災対策や産業振興など幸福の追求を支える社会基盤が整っている岩手』を政策推進の基本的な考え方としている。当該区間の整備促進については、大船渡市、陸前高田市、住田町、関係団体から強い要望がある。

県は災害に強い道路ネットワークの構築など今後20~30年間の整備方針をまとめた「県新広域道路交通計画」を策定した。将来的な高規格道路化を目指す「構想路線」に、大船渡市-遠野市間の「(仮称)大船渡内陸道路」の路線を新たに位置付け、内陸部を結ぶ高規格化の検討をする。

- (4) 現在白石トンネルに係る計画は、計画延長 2.7km、計画幅員 6.5(9.0~9.5)m、トンネル 2.3 km、橋梁1橋であり、事業期間は、令和4年度 ~ 令和 13 年度、総事業費:9,400 百万円で計画されているが早期の完成を要望する。
- (5)「構想路線」に、大船渡市-遠野市間の「(仮称)大船渡内陸道路」の路線を新たに位置付け早期の高規格化実現を強く要望する。

(4) 水産 不漁対策・共済制度(積み立てプラス)

- ・サケ・サンマ等の不漁対策、貝毒対策について伺います。
- ・陸上養殖の今後の動向と支援について伺います。
- ・積み立てプラスの今後の継続について伺います。

●対応 水産庁漁業保険管理室 管理補佐官 竹越攻征

水産庁管理調整課 課長補佐 太田耕平

水産庁研究指導課 課長補佐 佐藤翔太

水産庁栽培養殖課 課長補佐 太齋さゆり

水産庁栽培養殖課 課長補佐 中村真弥

消費安全局蓄水産安全管理課水産安全室 課長補佐 唐川奈々絵

サケ・サンマ不漁対策、ホタテ、ほや等の貝毒調査について様々な角度から調査し、県の方へ報告している状況であるが、大きな成果には結びついていないが、原因については調査結果が出ている。今後においては、現場サイドの要望を踏まえて、対応して行く考え方を伺う。

陸上養殖については、天候や環境の影響を受けづらいという利点があることから、様々な漁種について検討しながら、今後において進めて行く。

積み立てプラスは、定置漁業の不漁や養殖漁業の貝毒やへい死に対して対応している現状は理解しているので、今後においても現場事情に対応するよう継続を検討して行く。



8 東京都豊洲市場

視察項目 豊洲市場の現状と水産業の見通しについて

●対応 中央卸売市場 豊洲市場 管理課 課長代理(調整担当) 望月健志

豊洲市場は、50年先を見据えた首都圏の基幹市場として、築地市場が果たしてきた豊富で新鮮な生鮮食料品流通の円滑化と価格の安定という機能に加え、消費者の意識が高まっている食の安全・安心の確保、効率的な物流の実現など、産地や顧客・消費者の様々なニーズにも対応していく。

さらに、環境に配慮した先進的な市場とするとともに、築地市場の築いてきた歴史と伝統を継承・発展させていくことで、豊洲市場の魅力＝ブランド力を高めていくことを目指している。食の安全・安心を確保する。

温度を適切に管理できる閉鎖型施設になることで、商品を高温や風雨の影響から守り、鮮度を保つことが可能となり、効果的な物流を実現する。

売り場の近くに荷物を整理するスペースや駐車場を確保することで、車や荷物がスムーズに流れる市場になり、様々なニーズに応えられる施設になる。

食生活の変化に合わせて変わっていく消費者の皆さんのニーズや、産地・小売店・飲食店等のニーズにしっかり対応できるよう、加工・仕分け・包装等ができる施設を設けるとして
いる。[\(https://www.shijou.metro.tokyo.lg.jp/toyosu/feature/](https://www.shijou.metro.tokyo.lg.jp/toyosu/feature/) より)

豊洲市場では、農林水産大臣の許可を持つ卸売業者が、仲卸業者や売買参加者に卸売りをしている。一般の人が、卸売業者のせりに参加することはできないが、お買い物目的であれば「水産仲卸売場棟」の利用が可能である。散策には、豊洲市場の市場内にある魚がし横丁がある。プロ御用達の本格的な大商店街で、海鮮系はもちろんのこと、カフェや調理用具など約70店舗がズラリと軒を連ねている。海苔やお茶などの自然食品を取り揃える「丸山海苔店」、プロ仕様の包丁が自慢の「有次」、長靴などの衣類を販売する「伊藤ウロコ」、お団子などのスイーツを味わえる「茂助だんご」の出店がある。

[\(https://www.toyosu-market.or.jp/tour-area/](https://www.toyosu-market.or.jp/tour-area/)より)

望月氏より、現状の豊洲市場の現場説明を受け、近代的な温度管理による保管設備や先入先出の在庫管理をコンピューターにより管理し、実施はロボットが行っている状況を視察した。セリの魚管理は、安全と感染予防のため、見学所からの視察となる旨の説明を受け、近代的な管理を徹底していることを確認できた。また、築地市場の課題であった、トラックによる生産物の搬入について、新市場は、建物内が受け入れから、選別、加工まで順路化されており、豊洲に変わってからは、スムーズな根底管理によって行われている状況が理解できた。

昨今の不漁により、生産物が減少傾向にある状況の説明を受け、搬入管理についても調査を含め対応している状況である事の説明を受けた。大船渡からのカキについて、買い取り業

者と懇談ができ、品質の状況は良好であるが、出荷の仕方について要望を受けてきたので、カキ業者に伝達した。



